



① 基礎知識

猫と暮らす快適な生活。そのためには、猫の特性を理解することが大切です。

○ 猫の能力

【視覚】 視力はあまり良くありませんが、動体視力が高く、距離感を正確に判断することができます。

【聴覚】 聴力は犬より優れています。

【嗅覚】 犬より劣りますが、匂いを嗅ぎ分ける能力に優れています。

【触覚】 ヒゲの根元には神経が集中していて、障害物を感知します。

○ 猫の習性

【活動】 基本的には夜間に活発化し、昼間は休息しています。

【行動】 単独行動が基本です。一般的には、高いところや狭いところを好んで動き、不安な場所では隠れます。

【食事】 人や犬とは必要とする栄養素が異なります。

【発情】 メス猫は、生後6ヶ月程度で繁殖能力を備え、発情が始まります。発情は年3～4回、1回あたり約1週間続きます。

一方、オス猫は生後6ヶ月程度で生殖能力を備え、メス猫の発情に誘われて発情します。

【妊娠】 交尾をすると、高い確率で妊娠します。妊娠期間は約2ヶ月で、1回に3～8頭の子猫を産みます。タイミングによっては、年3回以上出産することもあります。

【トイレ】 乾いた場所で行う習性があり、柔らかい土や砂の上を好みます。

【マーキング】 爪とぎや尿スプレーのほか、擦り付けもマーキングの一種です。

○ 猫の寿命

飼い猫の平均寿命は10年前後とされていますが、獣医療の進歩やバランスの取れた食事などの効果もあり、20年以上生きる猫もいるようです。

一方、飼い主のいない猫は事故や病気のリスクが高いため、3～5年程度といわれています。

② 猫を飼う人のルール

猫を飼うことは、飼い主がその猫の一生について責任をもって面倒をみることです。

○ 法令の遵守

- ・動物の愛護及び管理に関する法律
- ・家庭動物等の飼養及び保管に関する基準
- ・薩摩川内市環境美化推進条例 など

○ 終生飼養の責務

愛護動物を殺傷、虐待又は遺棄する行為は犯罪です。法律により罰せられます。

最後まで責任をもって飼いましょう。

○ 屋内飼養に努める

猫は室内で飼うのが基本です。

上下運動のできる場所やリラックスできる場所を用意するなど、心理的及び肉体的にストレスを与えないように配慮すれば、室内で飼うことは十分可能です。

○ 繁殖制限

繁殖を望まないのであれば、不妊・去勢手術を行いましょう。生殖器系などの病気のリスクが軽減され、より健康的に長生きすることができます。また、性格が穏やかになるといわれています。

○ 所有者の明示

首輪に迷子札を付けたり、マイクロチップを使用するなどして、飼い主が分かるように明示措置を行いましょう。

○ 適切な飼養と近隣への配慮

猫に関する苦情が、人間関係にも影響を及ぼすことがあります。猫が嫌いな人やアレルギー反応を起こす人がいることも理解しましょう。



○ トイレのしつけと餌やり・水やり

猫は決まった場所に排泄する習性がありますので、しつけが可能です。餌や水は決まった場所で与えるようにし、置き餌はせず、食べ残しは早めに片付けるようにしましょう。

○ 健康管理

毎日の世話を通して、猫の様子を観察し、異常を感じたときは、早めにかかりつけの獣医師に相談しましょう。定期的な健康診断と予防接種を受けることも大切です。

○ 人と動物の共通感染症

世界では200種類以上が確認されていて、そのうち約60種類が日本国内でも発生しています。ほとんどの病気は、一般的な衛生対策を守れば予防できます。

- ・口移しや同じ食器で食べ物を与えない。
- ・口づけなど過剰な接触をしない。
- ・猫に触った後と、飲食の前には手を洗う。
- ・排泄物はすぐに片付け、処理の後には手を洗う。
- ・猫の健康と衛生的な飼養環境を保つ。

○ 高齢猫

老齢になると、感覚が衰え、動きが鈍くなります。消化機能も低下しますので、食べやすく栄養バランスのとれた餌を与えましょう。

老いに伴う症状は様々です。問題の原因を探りながら、一つずつ対処していくこととなります。かかりつけの獣医師にも相談しましょう。

○ 災害時の備え

万が一に備えて、保存ができる餌や水、常用薬を少なくとも5日分以上は確保しておきましょう。

通常、ペットは避難所居室には入れません。必要な資材は飼い主が持ち寄るのが原則です。ゲージやキャリーに入るよう、普段から慣らしておきましょう。